

寒木瓜

染谷 秀雄

池上本門寺へ行く途上、小さな鉢に咲く木瓜に目が行った。店の外に並べてある数鉢は手頃の値段で小さいながらも既にいくつか花を付けその色は鮮やかな深紅であった。かさばるので帰りに買うことにし、その場を離れた。本門寺へはお会式のときに人の流れに沿って二、三回来た程度なので道には余り詳しくない。帰りも同じ道に出て買い求めなければ買えなくなる。仕事を終え帰りは一人となったが何とか同じ道をたどって帰ることが出来、花屋に寄ることが出来た。

濃く咲き揃っているもの、まだ丈が短く色はやや薄いものの蒼が多くこれから期待できるものと二鉢を買い求めた。濃い花の鉢は階下の兄のところへ持っていき、姉の仏壇に供えた。こんなに小さくてもたくさん咲いていて蒼も多い、花好きであった姉もきつと喜んでくれると思うと二鉢買ってきてよかったと思った。もう一鉢は二階の我が家に置いた。この鉢は咲いてはおらずすべて蒼である。これから咲くのが同じように濃い色になるのを期待していたが日が経って葉とともに咲き始めた花は薄い色で同じように買って来ても咲きようが違うのが判った。数日を経て一階の花もつぎの花は深紅ではなく薄い色の花を付けていた。太陽の当たり方かもしれないと思ったがいずれにしてももう少し暖かくなったら二つとも地植えにしていくつもりである。二鉢とも葉が元気よく伸びてきている。